

開発製造

強みである“技術力”を活かし、 変化する幅広いニーズに対応

お客さまに満足して使っていただける商品をタイムリーに提供することをモットーに研究開発活動を展開しております。お客さまのニーズにお応えするため、今後も徹底した調査に基づき開発初期段階から、省エネ・低コスト農業、安全作業・環境保全への配慮など積極的に取り組んでまいります。

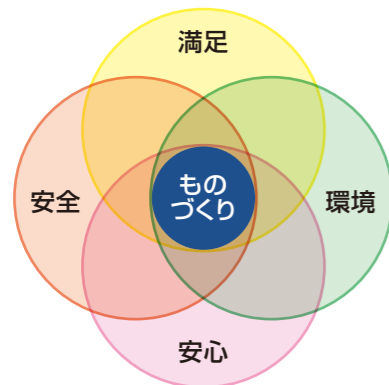


取締役専務執行役員
開発製造本部長
兵頭 修

研究開発・知的財産

農業機械、関連商品等のコア技術の創造活動とその活動で得られた知的成果である発明や創作等につき、戦略的に権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる「知的財産を重視した事業活動」に取り組んでいます。また、日本における特許出願の分野別公開数において、15年連続第1位となりました。この公開数の多さは、積極的な技術開発が行われている証であり、この技術力の高さに裏打ちされた商品力が他社製品との差別化を可能にしています。

●ものづくりの原点



●研究開発体制

開発・製造・営業部門の連携によって総合力を発揮し、研究開発を推進する体制としています。各地域におけるニーズや市場動向から商品戦略と研究開発の方向性を定め、企画立案し、国内外のお客さまのニーズに迅速に対応しています。

試験研究機関や大学と連携し、共同して研究開発を進め、技術開発の迅速化と効率化を図っています。2016年度は研究機関と8テーマ、大学と2テーマの共同研究を行いました。

●ものづくり“高品質・低コストの商品づくり”

長年培った製造技術で、品質が高く低コストの商品づくりに努めています。品質向上・経費削減・工数低減を図る改善提案制度を設け、2016年度は5万7千件を超え活発な改善活動を行いました。

また、商品の設計・製造方法、部品調達方法等の改善にてコストダウンを実現するVE活動を行い、商品の低コスト化を図っています。

●グループ内での相互研鑽

毎年、技術研究発表会を開催し、研究開発の成果や発明情報の共有とともに、討論を重ねグループ全体のスキルアップを図っています。



第27回技術研究発表会での討論会の様子

ニーズに対応した商品展開

国内農業構造変化への対応

主力である稲作機械のほか、省力化ニーズの高い畑作・野菜作分野への機械化に注力しております。また、農業の大規模化等に伴い、農業のICT化や農業機械のロボット化、植物工場等先端技術開発にも積極的に取り組んでおります。



ICT等を活用した「スマート農機」



農業女子の声を反映し、親しみやすいカラリングと、使いやすさを向上させたミニ耕うん機「ちょこブチ」を発売。

グローバル戦略の商品展開

北米や欧州コンパクトトラクタ市場の低価格ニーズへの対応や、アセアン・中国への日本で培った稲作技術を活用した商品展開など、地域のニーズに対応した商品を展開しています。



主な受賞・トピックス

「特許査定率日本一！」 「分野別公開数15年連続第1位」

お客さまに喜んでいただける商品の提供という想いから、新しい技術の開発、投入、実用化に積極的に取り組んでいます。

2016年度 主な受賞

◆土壌センサ搭載型可変施肥田植機

- ・第7回ロボット大賞「優秀賞」受賞 (主催：経済産業省)
- ・農業食料工学会「森技術賞」受賞 (主催：農業食料工学会)

◆植物生育診断装置

- ・農業食料工学会「開発特別賞」受賞 (主催：農業食料工学会)

◆トラクタの走行変速装置

- (デュアルクラッチトランスミッション:トラクタNT、NTA3シリーズ)
- ・平成28年度四国地方発明表彰「愛媛県発明協会会長賞」受賞 (主催：公益社団法人 発明協会)

日本農業にイノベーションをもたらした発明として「戦後日本のイノベーション100選」でも紹介された、「自脱型コンバイン」は1966年の開発より50周年を迎えました。



知的財産について「知的財産報告書」を発行しています。なお、井関農機ホームページでもご覧いただけます。

*ご報告内容：研究開発の取り組み、発明の創出と特許戦略、商品デザイン・商標の取り組み、グローバル化への対応、知的財産体制、知的財産の事業への貢献、保有権利状況、発明表彰、知的財産に関するリスク情報 等